



空間デザイン通信

2025
VOL.30
WINTER



創業30周年に向けて勇猛果敢に 一層の飛躍を目指します

昨年度は、新年早々の能登半島地震に始まり、夏には各地で集中豪雨による水害が発生するなど、各地の建築物に影響が出た年でした。これからも地震や風水害などの自然災害は起こることを想定しないとはいけません。日本の総人口は1億2488万人と前年比53万人減少（15年連続）となり、今後も減少は止まらない見込みです。また、2023年の日本の空き家率は13.8%（約900万戸）そのうち「放置空き家」が5.9%（約385万戸）と過去最高となっており、今後も増加傾向にあります。

さて、このような社会情勢の中、弊社は2026年に創業30年を迎えます。これからも社会に必要とされ、成長・発展を続けるためには、自社の方向性をしっかりと打ち出す必要があります。そのために特に以下のことを重点的に進めて行こうと考えています。



代表取締役

阿部 弘明

あけましておめでとうございます
今年もどうぞよろしく願いいたします



2025年の重点目標

1 成長マーケットに飛び込む

～弊社の建築設計スキルを、様々な成長マーケットに活かす～

人口減少に伴い、経済活動全体が縮小していくことは否めませんが、成長している、また新たに必要となる建築関連マーケットはあります。弊社の建築設計スキルを、成長しているマーケットに活かすべく、常にチャレンジします。

2 次なる海外展開をスタートさせる

～ベトナム中部エリアで様々な「日本需要」に対応し、事業展開を図る～

オフショア設計がメインの子会社をベトナム中部ダナン市に設立し、約2年が経ちました。今後は、日系企業として、近隣のフエ市・ホイアン市も含めたベトナム中部エリアを中心に、日本レベルでの産業・文化需要を掘り起こし、日本の中小企業と協業し様々な事業展開を図ることにより、地域に根差す企業づくりを進めます。



3 既存建築物の有効活用に尽力する

～建物の省エネルギー化、長寿命化等により、日本の既存社会資本の有効活用に貢献～

これからは既存建物を、有効活用し社会資本としての価値を保つことが大切となります。そのために、既存建物の省エネルギー化や多様なリノベーションにより、建物がこれからの様々なビジネスや暮らしに役立つようにすることが大切です。段階的耐震補強や建物の部分利活用などコストと効果のバランスを考慮した設計を行います。

工事 監理

工事監理で得た「現場目線」の経験や知識を設計に反映し、より良い建物作りに励みます

弊社では現在、東西エリアで6件の工事監理業務を担当しています。学校や学童クラブ、オフィスビルや事務所と、建物の用途はさまざま。工事内容も、新築・増築から改修や撤去工事まで多岐にわたります。それぞれのプロジェクトに現場ならではのドラマがあり、毎日が挑戦です。

基本的に自社設計の監理を行っているため、図面や仕様書の内容は十分把握しています。それでも、現場に出れば必ずしも設計図通りにはいかないのが現実。施工中に発覚する制約や予想外の問題はつきものです。そんなときは、施工者さんや発注者さん



建物の欠陥発生を防止するために、施工のチェックを行います。

と一緒に頭をひねりながら解決策を模索します。机上で練り上げた設計が、現場で形になる瞬間。その難しさと面白さは、やってみなければ分からないものがあります。

工事監理の現場は、学びの宝庫です。施工の技術や段取りはもちろん、現場で働く方々の知恵や、設計にはない独自の工夫に驚かされることもしばしば。忌憚のない意見を聞くことで、私たちの設計へのアプローチがより現実的で、実用的なものになると実感します。

とはいえ、すべてが順風満帆ではありません。課題の解決には時間と手間がかかることもありますし、時には厳しい指摘を受けることもあります。でも、その一つひとつが私たちの糧となり、次の仕事に活かせるヒントとなります。

工事監理を通して得た経験や知識を、今後の設計業務にしっかり反映していきたいと考えています。「現場目線」を取り入れることで、もっと使いやすく、もっと愛される建物を作ること。それが私たちの目標です。地道な積み重ねが、次のプロジェクトのク



工事監理とは、建築主の立場に立って、工事が設計図書どおりに実施されているかを確認する業務です。

オリティを引き上げていくと信じています。

これからも、現場の声を大切にしながら、より良い設計と監理を目指して進んでいきます。



(檜山)

イベント

ひと足先に大阪万博会場を親子でウォッチング!

8月26日に、一般社団法人大阪府建築士事務所協会主催「ちびっこ万博現場ウォッチング」に息子と参加しました。小学生がいる家族を対象とした見学会です。はじめに大林組の現場事務所内で大阪万博の紹介動画を視聴し、現場事務所屋上から建設中の現場を視察しました。既に大屋根（リング）は完成され、来年には沢山の人で賑わうことを予想できました。今回の目玉は大屋根リングだと思っていますが、大屋根リングの施工方法自体が独特で、柱・梁を組み立てていく通常の施工方式ではなく、予め柱に梁を差し込んだ「平面ユニット」や、構造体上部の部材である「立体ユニット」を地上で組み立てて、クレーン等の機械を使って持ち上げ取り付ける、施工方式が採用されているようです。



2日間で30組の親子が参加しました。

大屋根リングのデザインは、繋がる未来や無限の可能性を表現していますが、単なる徒歩スペースとしての活用だけではなく、イベント利用、コンサート会場、公共の集会場所としても使用されることが計画され、「多様でありながら一つ」という会場デザインの理念を表したシンボルとなる建築物です。今まさに、一人ひとりの個を尊重した多様性社会と言われていています。参加させて頂いた息子を含め、これからの社会を担う「ちびっこ」達にも、万博のリングのように輝く未来に向かって邁進して欲しいと思います。



(永田)

全体 研修

ビル建設に欠かせない「空調設備」の研修を実施

第2回全体研修を、9月にポリテクセンターで実施しました。今回のテーマは「空調設備」です。給気や排気、温度、湿度の管理など建物の中で快適に過ごすために欠かせない空調設備について学びました。

まずは座学からスタート。講義室を例に、部屋の中にはどのような空調機器が設置されていて、どのような仕組みで成り立っているかを考えるワークを行いました。若手社員にとっては難しい課題だったようですが、一生懸命に取り組んでいました。座学の後は答え合わせを兼ねた施設見学。天井裏を覗き込み、図面と照らし合わせながら配管を追い、最終的には屋上の室外機まで確認しました。実際に目で見て触れることで、座学だけでは分かりにくかった仕組みを具体的に理解できました。「最近、外出した際には天井を見上げるようになった。」と話す社員もおり、今回の経験が非常に刺激になったことが伺えました。講師の解説も分かりやすく、学びの多い時間でした。今後も実践的な経験を重ねることで、会社のスキルの層を厚くしていきたいと思ひます。



ビルの空調について、実際の設備を見学することで理解が深まりました。



(檜垣)

インターンシップ

学生から外国人まで多様なインターンシップ生を積極的に受け入れ、刺激的な日々です！

ここ数年、インターンシップ生を積極的に受け入れています。期間や形態はさまざまですが、建築業界や設計事務所での仕事、空間デザインという会社を知っていたく機会になれば、と取り組んでいます。

最近特に増えているのは、中学校や高校など学生による企業訪問です。学生がインタビューとなり、「働くこと」や「社会人」について学ぶプログラムで、修学旅行の一環として遠方から訪れるケースもあります。

「どうしてこの職についたのか」「仕事のやりがいとは？」「挫折したことは？」「学生時代に身につけておいた方がよいこと」など、ときにドキリとする質問もありますが、どの学校も授業時間いっぱいまで質問が続き、熱心に取り組む姿勢に感激します。

12月には、東京都主催のプログラムの一環で、インドからのインターン生を2か月間受け入れました。

このプログラムは、日本企業と海外人材のマッチングを促進するもので、企業側も都の支援を受けながら採用活動ができるというメリットがあります。

空間デザインを選んだインターン生は20代前半。普段は日本語翻訳をしているのですが、一時的に休職して来日。当初はたどたどしい日本語でしたが、すぐに電話応対もこなすようになり、スキルアップしていく様子を間近で感じました。本職の翻訳作業だけでなく、日本企業が海外進出に必要な調査を行うなど、即戦力としての実力も発揮。積極的で明るい性格なので、社内を和ませるムードメーカーとしても活躍してくれました。

また複数日にわたり参加する方には、オールジェンダートイレのレイアウト計画提案に挑戦していただきます。男女の区別なく利用できるオールジェンダートイレは、多様性の観点や介助のしやすさで注目されていますが、プライバシーに対して不安視されてもいます。このような問題に



すっかり社内に馴染んでいます。



インドのお祭り「ディワリ」を事務所でも開催してくれたり、本場のチャイをふるまってくれました。

について考えることで、設計の面白さや、トイレについて考える機会となればと思っています。インターン生は、頭を抱えながらも真剣に取り組み、ハッとするような提案を見せてくれます。中には「ミラーボールを飾っちゃおう！」といったユニークな発想もあり、個性が光っていて、私たちも楽しみつつ、勉強になっています。

インターンシップ生の方の姿には、私たち社員も刺激を受ける日々です。空間デザインでの経験が、インターン生皆さんの未来に少しでも役立つことを願っています。ぜひ夢に向かって頑張ってください。応援しています！



(八田)



学生たちは質問シートをしっかりと準備して真剣にメモをとります。



日本語の翻訳ができるので電話応対もこなします。

認証

ソーシャル企業認証制度 S 認証取得しました！

当社の設計業務を通じての持続可能なデザイン・まちづくりへの取組み、建築物の省エネ化など環境問題への取組み、設計業務以外では職場体験受け入れや外国人インターン生受け入れ、地域の就労支援団体への協力などの社会貢献が評価され、S 認証の認定を取得しました。S 認証とは社会課題の解決や ESG 経営を目指す企業に対し、経営方針や事業内容を基準に評価、認証を行う制度です。

おつき合いのある金融機関さんがニュースレターで当社の活動を知って、申請を勧めて下さり、取得に至りましたが、認証を取得したことで、より一層地域に根差した社会貢献の必要性を意識するきっかけになりました。



(中尾)



ソーシャル企業認証制度 S 認証とは社会課題の解決を目指す企業を対象にした制度です。

訓練

もし社長が緊急入院したら、社員はどう動くか…

11月中旬に BCP 検証机上訓練を行いました。昨年は、台風の発生を想定し、台風上陸直前から上陸直後 3 日間の社員の動きや事前に確認しておくべきことについて考えましたが、今年は自然災害ではなく、経営者である社長の緊急入院を想定し、昨年と同様に話し合いをしました。社長が動けない状況で、関係者と連絡を取る際の役割分担や対策本部がいつどこで打合せを行うかなど、共通認識を持っておくべきことについて話し合い、いくつかの課題を見つけることができました。ただ、社員だけでは対応できないこともあるため、何を重要視するか優先順位を考える必要があることも理解できました。

緊急事態に社長や社員の予定を確認し、迅速に関係者に連絡をするためには、ある程度「見える化」することが大切だと改めて感じました。また、自然災害以外にも会社の運営に関わる被害が想定されることにとっても考えさせられました。



BCP とは災害などの緊急事態における企業の事業継続計画のことです。



(笹田)

おおつか グルメマップ

2024年春に豊島区南大塚に移転した東京事務所。新しい事務所の周辺には、たくさんの飲食店があるおかげで、お弁当派だった社員が、毎日のように新規店舗の開拓に励み、事務所一の飲食店情報通になったという大変化も！大塚エリアの魅力は、その「多国籍感」。日本食をはじめ、イタリアン、中華、ベトナム料理、インド料理などさまざまで、その形態もおしゃれなカフェから居酒屋まで、種類の豊富さには驚かされます。さらに、細い路地にまで飲食店が立ち並んでいるので、いつも新しい発見があるのも楽しいポイントです。加えて、異国情緒漂う店舗看板や店構えもこの街ならではの見どころ。どこか日本離れたような、懐かしいような味わい深い雰囲気も、大塚の魅力の一つです。



(都澤)

1 **大塚といえばココ？おにぎりの名店**
おにぎりぼんご
豊島区北大塚 2-27-5 1F

2 **行列の絶えない絶品ハンバーグ！**
洋食 GOTOO
都豊島区南大塚 3-54-1 1F

3 **一皿で二度おいしい！お洒落カレー店**
Craft Beer & Curry Holyhead
豊島区南大塚 3-54-3 山内ビル 1F

4 **ボリューム満点の隠れた名店**
スズヤ (SUZUYA)
豊島区南大塚 3-48-5 2F

5 **やみつき！ワンタン麺！！**
広州市場 大塚店
豊島区南大塚 3-52-10 今井第五ビル

6 **小鉢が並ぶ優しい母の味**
炭火焼 鳥ひろ
豊島区南大塚 2-33-11 1F

7 **生パスタと豊富なメニューに常連続出！**
カフェアンドバー ポックル
豊島区南大塚 2-33-11

8 **一皿で十二分の満足パスタ！**
nokisaki 商店
豊島区南大塚 3-2-10

9 **チャーミングなマスターの多国籍料理**
ごはんカフェMARE
豊島区東池袋 5-45-5 岡笠ビル 1F

10 **気軽に楽しめる！朗らかなタイ料理店**
タイ屋台料理 ムエタイハウス
文京区大塚 5-9-3

11 **アットホームな路地裏の喫茶店**
モーニング・サン
文京区大塚 5-10-9

12 **お洒落な雰囲気ともちもちパスタ**
Pasta Dining Evoluto
文京区大塚 4-51-3

新規開拓の旅はつづく…
TO BE CONTINUED…

講演

「失敗を恐れない勇氣」について 社長の阿部が大正大学で講演しました

東京同友会北部協議会の依頼により大正大学にて講演を行いました。講演では「失敗を恐れずにチャレンジすること」の重要性と人のつながり、コンフォートゾーン*から抜け出す勇氣について、自らの経験を重ねながら学生たちにお話しました。無謀でも、人と違ってても構わない、自分らしい生き方をしている社長を見習い、私もコンフォートゾーンから抜け出していこうと思いました。



(相原)

*コンフォートゾーンとは、不安やストレスがなく快適に過ごせる環境や精神状態のことです。コンフォートゾーンに留まり続けることによって、未知の領域に挑戦することに不安や恐れを持つようになり、成長が停滞する恐れもあります。

編集後記

新しい年の幕開けとともに、30周年へ向けた第一歩を踏み出しました。多様な人々との交流が、私たちの未来を形作る力となっていると感じています。笑顔と感謝を忘れずに、皆さまとともに歩んでいける一年にしたいと思います。皆さまのご期待に応えられるよう、社員一同さらなる精進を誓います。本年もよろしくお願いたします。

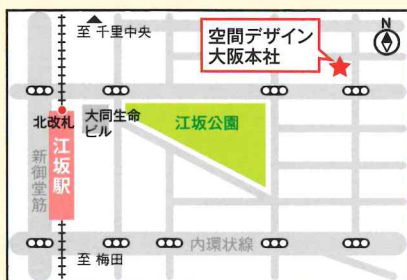


(渡邊)

空間デザイン通信 30号 2025年1月発行

大阪本社

〒564-0062
大阪府吹田市垂水町 3-24-1
シンプレス江坂 402
TEL.06-6192-8751



東京事務所

〒170-0005
東京都豊島区南大塚 3-12-9
喜多ビル5階
TEL.03-5980-8535

